

近年の結核集団感染事例から学ぶ ～第77回日本公衆衛生学会自由集会～

新宿区保健所

保健予防課

遠藤 雅幸

第77回日本公衆衛生学会総会が平成30年10月24日から3日間「ゆりかごから看取りまでの公衆衛生」をテーマに福島県郡山市において開催された。初日に福島県保健福祉部と結核予防会結核研究所による「結核集団発生の対策に関する自由集会」が開催され、3事例の報告と意見交換が行われた。

事例報告

①精神科病院における結核集団感染事例

(京都府健康福祉部健康対策課 東出 理沙)

精神科病院において入院患者が肺結核 (b II 3) を発病し、患者・職員等の計436名に接触者健診を実施した結果、発病者35名 (うち塗抹陽性者10名) 及び感染者61名が発生した事例について報告があった。本事例では、閉鎖病棟内で感染拡大があったことが推察され、自覚症状を上手く訴えられない精神疾患の患者に対する診断と対応の遅れが感染拡大の原因の一つとして考えられた。入院時の胸部XP検査を含め、病院が早期発見・診断する院内体制を整えることに加え、患者発生時には保健所と病院が連携して感染拡大防止と迅速な接触者健診を実施することの重要性を再認識させられた事例であった。

②マンガ喫茶店における日本人若年層の結核集団感染事例 (筆者)

マンガ喫茶店で1年間ホームレス生活をしていた若年女性が肺結核 (b I 3) を発病したため、店舗スタッフ・長期宿泊客の計34名に接触者健診をした結果、発病者6名 (うち塗抹陽性者なし) 及びLTBI患者11名 (QFT陽性率50.0%) となった事例を報告した。本事例では、病院・企業・保健所間の緊密な連携と胸部CT精査が感染拡大防止のポイントとなった点を紹介。またVNTRの結果や質問紙調査の結果から、都内マンガ喫茶店における結核感染リスクが高い状況を報告し、住所不定の結核患者が発見された場合には、マンガ喫茶店等の滞在歴を丁寧に聴き取り、迅速に接触者

健診を実施することが重要であると提言した。

③医療機関における結核集団感染事例

(札幌市保健所 山口 亮)

誤嚥性肺炎と診断され死亡した入院患者を初発患者とする院内感染の集団感染事例について報告があった。病院職員57名、入院患者62名、その他21名に対する接触者健診の結果では、発病者7名と感染者21名が発生。本事例の接触者健診は現在進行中であるため、1) 初発患者が結核と診断されなかった点 2) 院内感染 (結核集団感染) のプレス発表の意義 3) VNTRを活用した調査やゲノム解析の可能性、等について課題提起があった。自由集会会場からは、院内感染のプレス基準やその方法について質問があるなど、本事例に関する意見交換も活発に行われた。

事例報告後、結核研究所の森亨名誉所長から①感染力の強い結核菌の特性、②他自治体間との連携の重要性、③施設内空調の調査、など3つのキーワードから助言と講評をいただいた。各々の事例報告に共通して、保健所と病院との連携のあり方が検討されるなど、自由集会は今後の集団感染事例の防止や発生時対応の際に参考となる有意義なものとなった。🐼



自由集会会場の様子